

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	話し合いの機会を持ちながら文章の羅列暗唱に留まることなく理念の心の理解を意識付けを深めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	気軽にお茶のみなど近所の方に寄って頂けるようになりたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	開所から間もなく力も不足している状況で地域貢献としてのアプローチはできていない。当事業以外の介護についての相談などを受けた場合は内容に応じ他事業所等を紹介している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行なった。	○	さらに評価の意義や理解を深め、改善点や私達のいい面をはっきりさせ取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所から間もなく運営(生活の状況や取り組みが中心)の報告により理解を深めている段階で意見を求めているが、要望などあれば取り入れる努力をしている。	○	理解を深めながら意見を頂きサービスの向上に活かしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス部会(地域の介護事業所が集まる会議)への参加を行っている。(主催は地域包括支援センター)		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員により知識や理解にバラツキがある。今年度は地域介護サービス部会(包括支援センター主催)の研修に参加をした。	○	安心ネットへの名称変更も含め、制度の理解を深める機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時など未確認の転倒事故発見を含め身体の確認をしている。	○	研修会を通し理解を深めながら防止していく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と口頭により詳細を説明し、疑問がないかなど確認しながら契約を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から言いやすい雰囲気やさりげなく聞いたりできる環境作りを心がけている。また、家族さんの訪問時にも聞いてもらっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態については、即時の電話報告や月に1回健康管理の用紙(ホームでの状況・受診・訪問看護の健康管理)と薬局から出される薬の情報を送付している。家族さんにお知らせしたいことは、手紙で送付している。金銭管理はホームで行っていない。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口(ホーム・法人・市役所)を案内している。また、ご来訪記入表にアンケートを設けている。また、苦情の報告と対処を地域推進会議で伝え意見を頂いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議で発言の機会を設けている。また、提起・共有・改善シートを活用し提案できるようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	実情に合わせ勤務時間の変更を行った。職員が手薄になる時間帯などには体制を厚くするように努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで移動はない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開所時研修の実施をした。毎月1回のグループホーム協会の研修会への参加や県主催の研修会等に職員が交替で参加する機会を設けている。	○	今後も計画性を持って内部・外部研修に取り組みたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の月に1回の研修会に参加している。認知症介護に関する研修のほか、事例の検討会も行なっている。また、他のホームの運営推進会議に研修参加をし交流や向上するための機会を設けている。	○	全職員が交代で参加できるようにしたい。また、他のホームと交換研修も行いたい。(限られた少数の職員体制であり多くは参加できない場合もあるので短時間労働者の活用も考えたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室と休憩時間の確保をし息抜きをしてもらっている。また、運営者がホームに寄った際に職員の悩みや話を聞く機会を設けている。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格を取得した場合は、資格手当を付与している。管理者や職員から悩みや不安等に対し相談や話し合いをする機会を設けており楽しく働ける環境作りに努力している。研修等と一緒に参加する機会も多く課題を共有しながら解決策などを出している。	○	資格取得に向けた支援(研修への参加)をしたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みによる事前の職員訪問により情報収集を行っている。また、入居前にホームに来て頂き見てもらっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の訪問などにより何う機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により他のサービス利用をお勧めしたり、包括支援センターなど紹介している。また、担当介護支援相談員も交えながら入居や他サービスも含めた相談を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに来て頂いている。何度も足を運びながら、利用を選択される方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食べたい物など相談したり、作り方を教えてもらう場面がある。雑談の中からその人の思いを引き出したり、昔のことを教えてもらったりの場面が多々ある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中で気づいたことをご家族さんに伝えたり、聞いたりすることで関係を築いている。	○	さらに深くご家族さんともコミュニケーションを図りたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までに至る入居者さんやご家族さんの話を聞きながら無理のない関係作りに活かしている。また、外泊や外出時も現状を伝えスムーズに外泊や外出ができるようにしている。	○	ご家族さんとの関係がわからないことも多いので、無理のない範囲で共有し、よい関係作りに活かしたいと思います。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物を持ち込んで頂いている。ご家族さんは勿論のこと、友人も来訪されている。また、希望により今までの馴染みの理美容室に行くことがある。	○	ご本人の話しやご家族さんなどからの会話から馴染みを見つけ出し生活に活かしたいと思う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルを未然に防ぐ関わりやトラブルになった時の対処のほか、独りで過ごすことが多い方には職員が部屋にお邪魔し一緒に過ごしたり、気の合う方同士が過ごせような環境作りをしている。また、入居者さん同士で食事の後片付け(運んだり・洗ったり・しまったり)をすることがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームでの状況を必要に応じ伝えたり、家族さんに会ったり、申請書などの手続きの相談やアドバイスをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中からそれぞれの思いや希望を汲み取るようにしている。思いがうまく表現できない方の場合にはご家族さんからも話を聞いている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活で「物」や「会話」などにより馴染みや暮らし方を知るように努めている。また、ご家族さんからも話を聞いている。	○	ご家族さんがいらした時など、もっと馴染みや暮らし方を聞いて生活に活かしたい。また、気づきを多く見出しその人の生活に活かしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	表情や動きを見ながら心身の変化に気をつかっている。また、血圧・体温測定をしている。記録として、おおまかに食べた量、飲んだ量、トイレの回数と量、生活について、健康についてを記録し総合的に把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	話し合いにて計画を作成し、ご家族さんにも意見を求めています。	○	個々のカンファレンス(話し合い)をもっとしっかり行い、本人本位の計画にしていきたい。いつでも話し合いができ全体で共有できるようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じた即時の計画変更には至っていない。	○	申し送りなどにより必要な支援をしているが、必要に応じ計画も変更していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を共有しています。	○	状況に応じ即時の計画見直しがなされていないので、必要に応じ見直しを行って行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制によって日常の健康管理や24時間の相談や支援対応がある。また、必要に応じ訪問歯科も利用できる。	○	3年経過によってデイサービスやショートステイが実施できるので、地域との関わりを密にしながら3年後の体制作りも視野に入れていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	管轄の警察署及び消防署とは火災害時対応等の緊急事態対処のため情報提供を行っている。また、民生委員さんが必要に応じて来訪してくれている。町内会からは草取りや学校文化祭への参加の誘いを頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	カルチャースクール、公民館、老人福祉センターの温泉利用など社会資源を活かせる取り組みが出来るように調査したが実施に至っていない。	○	必要に応じて利用したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議に包括支援センターも参加している。また、介護サービス部会や地域包括支援センター主催の研修会に参加している。また、「行方不明者連絡網」の整備等を働きかけている。	○	将来的に関係機関や地域と共に行方不明100番ネットワーク(仮称)を作りたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を設置しているが、以前からのかかりつけ医受診の希望があれば優先している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院のほか、必要に応じ専門医を受診している。	○	さらに医師との関係作りを深めていく必要がある。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	契約により訪問看護ステーションの看護師が週に1回健康状態を確認している。また、必要に応じ24時間の連絡や訪問体制が取られている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、病状の経過のみならずホームでの生活の様子やご本人の特徴などを病院関係者に伝えることにより少しでも安心できるように支援している。また、入院中の面会等により状態を把握したり、退院に向けての話し合いを行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の指針を作成し開所時に方針の確認をした。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在まで重度や終末期に該当する方がいないが、個々の状況をご家族さんに伝えている。	○	療連携指針を軸として、医師・看護師・ご家族さん・ホーム関係者など、チームとしての支援体制を深めて行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによつてのダメージを少なくするために入居前の情報交換や馴染みの物を持ってきて頂いたりしている。退去に至った方の場合、退去先へ出向いたり電話で生活の状況を伝えたりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの声かけを行う際は周りにも配慮している。また、生活の記録についてはイニシャルを使い保護している。	○	通常の記録物の取り扱い(置き場所)に配慮したい。また、初心を忘れず利用する人の尊厳を守り支えていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	こちらから押し付けるのではなく、本人の希望を大切にする支援、納得できるような支援を心がけている。	○	自然な形で思いや希望を言って頂くような雰囲気と関係ができるように、また、自分で決めて頂くことも意識して関わってきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力「しましょう」「ちょっとまって」と言う言葉を使わずに、ご本人の思いを大切にしている。細かい日課や過ごす場所も自由にしている。希望に応じて外出も行っている。	○	馴染みの場所、行きたい場所への支援をもっとしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着たい服を選んでもらったり、行きたい店に外出している。	○	ご家族さんの協力やアドバイスも頂きながら、もっとその人らしさができるようにしたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな料理や季節の食材を取り入れている。食事での会話で楽しく食べられる工夫もしています。また、準備や片付けを押し付けにならないように意識しながら一緒にしている。	○	その人のペース(歩調)で食べることができる環境作りをしていきたい。また、実際買い物に行ってますが、食材を見て、選んで、作って、食べるという断片ではなく生活として捉えながらの支援を大切にしたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に行った際に食べたいものを選んだり、好き嫌いを知りながら支援している。また、好みのおやつなどを希望された場合などは一緒に外出して購入している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ではトイレに行けずリハビリパンツを使用していた方ですが、案内でトイレができ布の下着に変えられた方もいます。一人一人の状況に合わせた支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は午後になっている。希望により入浴しているが、数日に渡り希望されない方には強制的にならないように気遣いしながら支援している。また、安心・安全を意識しながらお湯の温度も好みに合わせている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	好きな時間に休息している。夜の安眠確認は概ね2時間おきに訪室している。また、布団の調整、温度や換気にも心がけている。希望に合わせてベットかタタミに布団を敷き寝ている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの方が「長年続けてきたこと」「できること」「やりたいこと」が続けられるように支援している。普段の様子からもやりたいことなどを汲み取る努力をしている。感謝することも忘れないようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は希望により所持して頂いている。買い物に行き欲しい物を買ったり、食べたい物を食べられるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・ドライブ・帰宅希望の際の付き添いなどを行っている。また、道路まで一人で気晴らしに出たりしている方の見守りなどもしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	盛岡伝統さんさ祭りや八幡の祭りに希望に応じ出かけている。また、祝い事やご不幸の際などご家族と一緒に出かけることがある。	○	離れた故郷に行ってみたいなどの希望もあるので、計画を立てて出かせたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話をしている。また、本人宛にかかってきた電話にも出ている。	○	年賀状も含めて書けるように支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族さんをはじめ、知人の方の面会もみられる。夜中以外制限はなく、気軽に来て頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加により職員へ報告。基本はいつでも自由に動ける環境を作っている。	○	さらに身体拘束防止についての理解と取り組みを深めたい。特に言葉による拘束についての認識や対応方法を話し合いたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に出る方には笑顔で送ったり見守りや付き添いをしている。日中は玄関のカギをかけていない。天候によっては、玄関の戸を開放している。夜間は防犯上カギをかけている。また、希望によりご本人の部屋に簡易的なカギを設け使っている方もいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人の負担にならないように目配り・気配りにより見守りをしている。特に日中は確認のために職員が動くのではなく、日常的な関わりの中で確認している。夜間は基本的に2時間おきに安全(安否)の確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全な配慮が必要な物については、保管場所を考慮している。それ以外は自由に使えるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりに合わせ食事に配慮し誤嚥を防いだり、薬の表示や飲むまでの確認を行なっている。事故が起きた場合は、事故報告書を作成し対策を検討し実行している。	○	いろいろな事故を想定しながら事故防止の取り組みをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を開所前に行なった。緊急時対応表を作成し、いつでも見れる状態にしている。訓練を定期的には実施できていない。	○	緊急時の対応についての訓練を何回も行なう必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成している。避難訓練を行なっている。避難訓練前に近隣にお知らせをした。1人が様子を見て来て下さった。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	自由に外出できるよう、抑圧感がない暮らしができるようにしている。危険に関してご家族さんに報告と相談をしている。	○	安全に関する用紙を夏頃から活用しているが、さらなる充実を図りながら共有していきたい。
ま				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の血圧測定と体温測定。普段と違うと思われた場合の血圧等の測定のほか、会話・表情・動きの変化から早期発見に努めている。健康に関する記録(医療面で気になること・受診の記録。訪問看護の記録)により共有している。また、必要に応じて訪問看護に相談したり医療機関受診を行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出される薬の情報(説明書)をいつでも見るができるようにし共有している。薬を最後まで飲んだかを確認している。禁忌事項も共有しているが、全員分の全部の薬に関しての全部の副作用を理解することはできていない。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝に牛乳、お昼にヨーグルトを出している。また、好みの飲み物を含め多目に飲むことができるようにしている。飲んだ量や排泄の量をを記録にし周期を見出したり共有に努めている。また、日常の生活で体を動かすことを意識しながらも、散歩や買い物に出て体を動かすようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	磨く時間(ご飯の後にすぐという方法ではなく)を一人ひとりの状況や口の中の状態に合わせ歯ブラシではなく専用スポンジも使用している。朝と昼の歯磨きは全体的に不足している。	○	口の中の清潔を保つ知識と技術を研修なども通しながら深め取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や飲み物の量を記録し共有している。好みに合わせた飲み物を飲んで頂いている。飲み物を勧める際は強制的にならないように気を使っている。ある程度バランスの取れた食材(品目)を意識しながら、炭水化物(糖質)が極端に重複しないような献立にしている。カロリー等の計算は行なっていない。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	原則、インフルエンザの予防接種を行なっている。感染症防止のための衛生マニュアル(取り決め)を作成し予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生マニュアルを作成し安全に努めている。また、必要に応じマニュアル(取り決め)を変更・追加している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植え明るい雰囲気を作ったり、長イスを置き使い勝手を良くしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、風鈴や七夕、こいのぼりなど飾ったり見た目でも大まかな季節がわかるようにしている。また、居間には日めくりカレンダーを下げ日にちがわかるようにしている。便所は朝の掃除のほか必要に応じ掃除を行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファ、イス、廊下の長イス、台所と居場所としては複数あり、思い思いの場所で過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂いている。配置もご本人やご家族さんとも相談しながら行なっている。また、希望に応じ(今までの継続で)ベットかタタミで寝て頂いている。	○	今後もご本人の意向を聞きながらご家族とも協力し心地良く過ごせるようにしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気機能がある住宅ですが、適宜、窓を開けるなどし換気を行なっている。また、トイレ内においては、換気のほか必要に応じて消臭スプレーなども使用することがある。乾燥する時期には加湿器も使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台は車イスも使用可能な物にしている。廊下や便所、脱衣所に手すりをつけ、必要な立ちやすいように歩きやすいようにしている。玄関には車イス対応のスロープも設置している。その他、階段に昇降機、滑り止め、風呂場の手すりや滑り止めなど必要に応じ付けたししている。台所の流しは高めの為に使いにくい。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	便所には「便所」または「トイレ」と表示をつけている。部屋に入りに名前を書いた物を取り付けたり、ご本人の目印になる物を付けている。ご本人ができることはご自分でして頂きながら、一人ひとりに応じた支援を心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居間の外にベランダ(ウッドデッキ)があり洗濯を干したりしている。玄関先に花を植えたり、庭先の草むしりをしたり、車寄せで日光浴をしたり涼んだりしている。	○	ちょっとした野菜や果物など収穫できる楽しみのある物も植えてみたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々の生活のリズムや思いを大切にしている。また、職員の都合ではなく、入居者さんが自由に動けるように待つことを大切にしていきたい。また、介護が最初にあるのではなく、生活の中に介護を活かし支援していきたい。